

令和 2 年度 東京都立墨田川高等学校 学校経営報告

東京都立墨田川高等学校長
寺 島 雅 夫

1 目指す学校像

- ① 学習面については、単位制高校の利点を生かし、「予習、授業、復習、自発的学習」の学びサイクルを生徒自ら実践し、高い学力を身に付け、進路希望の実現を図る。

コロナ禍の厳しい環境の中にあり、家庭学習と対面学習の両立を図りながら、とりわけ 3 年生にあたっては、進路希望の実現に取り組み、成果を残した。

- ② 部活動については、はじめのある活動を行い、技術力等を高めることとともに創造性や社会性を育て、有為な社会人としての資質を培う。

コロナ禍にあり、部活動への取り組みは不十分なものであったが、東京都の部活動の在り方方針に従い、適正な部活動の実施に取り組んだ。今後も継続して適正化を図る。

- ③ 学校行事については、質の高い活動を行うことにより、望ましい人間関係を形成し、公共の精神を育成するとともに、協働意識や学校への帰属意識を高める。

体育祭、文化祭など主な学校行事が中止となり、生徒には悔しさが残った。その中で、次年度への引き継ぎを意識し、学校行事の継承を目標に取り組んだ。

- ④ 規律正しい学校生活により、自ら判断して行動できる密度の高い教育活動を実施していく。

臨時休業・分割登校・時差通学など、環境自体が不規則な状況にあった。心身の健康のバランスを崩す生徒も少なくなく、生徒へのケアについては、引き続き次年度への大きな課題である。

2 中期的目標と方策

- (1) 3 年間を見通した進学指導マネジメントシステムの構築

- ① 将来の生き方を考える進学指導を入学時から体系的・組織的に行い、3 年次の 4 月までに生徒の志望校を明確に決定させる。

1, 2 年次では総合的な探究の時間を活用し、多角的な視点から自分自身や自己の学びを見つめ、高校卒業後のステージにつながる教育活動を推進した。

- ② 3 年間を見通した進学指導計画に基づく外部模試や面接等を活用し、生徒の進学希望に応じた科目選択指導を行う。

- ③ 入試結果や定期考査、学力テスト、外部模試等の計画的・組織的な定点観測や系統的・統一的な進学指導を進める。

担任を中心に三者面談や個別面談を繰り返し、学習状況を適切に把握しながら進路希望に応じた科目選択指導を実施した。外部模試の利活用については一層の工夫を継続する。

- (2) 生徒の希望する大学進学を可能にする学力の伸長

- ① 授業を大切にしたい学びサイクル（予習→授業→復習→自発的学習）を定着させ、大学入学

共通テストに対応できる学力の獲得を目指して効果的な学習指導を行う。

学びのサイクルの中で、『自発的学習』を意識させる取り組みを実施し、新しい大学入学共通テストの出題傾向と重なる要素もあった。次年度はより一層推進させたい。

- ② 基礎基本から鍛える学習指導と長所を伸ばし短所を補う習熟度別授業・少人数授業の実施を通して、生徒一人一人の学力を教科担当者が責任をもって高める。
- ③ 校内研修や教科会・科目担当者の打合せを通して、生徒の学力をより高める授業が展開できるよう、組織的に教科指導力の向上を図る。

新型コロナウイルス感染症の下、家庭学習の確立やオンライン学習の導入等について、教員も試行錯誤の対応となった。オンライン学習については、次年度も継続して推進を図る。

(3) 進学校としての学校行事（体育祭・文化祭・合唱祭）との両立

- ① 生徒の創造意欲を高め、新しい時代のリーダーにふさわしい指導力とコミュニケーション能力を培う教育活動を学校全体で創意・工夫しながら推進する。
- ② 生徒の実行委員会組織を中心とした企画・運営等を通して、集団の中で個性を育み、自主性や社会性、規律性を高めていく。
- ③ 進学校としての組織的な学校行事指導を通して、生徒の自己有用感や帰属意識を高めさせる。

コロナ禍で多くの学校行事が中止となり、生徒の自主性や社会性の育成に課題が残るとともに、自己有用感や帰属意識を高める難しさが残った。次年度への課題となる。

(4) 進学校としての部活動の両立

- ① 部活動の指導方針を明確に定め、年間活動計画に基づく指導・改善を通して、公立進学校として在るべき部活動を指導していく。
- ② 校内活動のみならず、他校との交流や発表等を通して、本校のよき伝統や校風を自覚させ、時間を大切にしたいはじめのある部活動を実施していく。
- ③ 学校保健計画と連携して部活動における安全教育を進めるとともに、体罰の無い健全な指導を展開する。

コロナ禍により、十分な部活動環境を整備することができず、各種大会や競技会も中止となり、部活動の意義の理解や部活動を通して人間関係を構築する機会が限られてしまった。

(5) 意図的・計画的・組織的な指導体制の構築

- ① 分掌・教科・委員会等が組織として学校改革に取り組む学校づくりを進めるために、部会や教科会・教科主任会等における議論をもとに、企画調整会議を中核とした学校運営を進める。

企画調整会議を中核に据えての学校経営を図っているが、教科主任会等、まだ十分に機能しているとは言い難い部分もある。機能的で効率的な学校経営をより一層推進する。

- ② 計画的・段階的な人事配置をすすめ、教育活動を点検・改善できる組織的な指導体制を構築する。

人材確保が十分でない部分があり、中・長期的視点に立った人事配置に課題がある。経験豊富な教員と中堅・若手職員との連携を育成の視点からもより一層推進する。

- ③ PTAや同窓会、スクールカウンセラー、地域、有識者等による外部評価や学校運営連絡協

議会を活用し、学校運営や教育活動等の点検・改善に努める。

学校運営連絡協議会も開催は1回のみとなり、アンケート項目を十分に精査することができなかった。次年度に向けPDCAサイクルを確実に構築する必要がある。

(6) 教育環境の整備・充実

- ① 自律経営推進予算を有効に活用し、施設・教育環境の整備に投資していく。
- ② 東京都教育委員会及び学校経営支援センター等と連携し、教育環境整備に努める。

施設・設備の老朽化が著しく、改修・修繕の必要性が高い。学校単独で整備できる内容ではなく、引き続き東京都教育委員会に強く要請していく。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

- ① 進学重視型単位制高校としての教育課程の充実
 - ア 国公立大学受験に対応する進学重視の教育課程の点検、分析とそれに基づく改善
 - イ 土曜授業や習熟度別・少人数授業、特講等の点検、分析とそれに基づく改善

コロナ禍において、教育課程の実施にさまざまな障害が生じた中で、点検や検証も十分に行われたとは言い難い状況がある。ただし、新たな教育課程編成に向けた取り組みの中で、文理選択、土曜授業など生徒の実態や社会環境を考慮に入れ、方向性を見出すことができた。

- ② 進学指導マネジメントシステムの再構築
 - ア 学力テストや外部模試等の定点観測を活用した進学指導システムの点検・改善
 - イ 教科主任会議と計画的な教科会の実施による学習指導の点検・改善

東京都教育委員会、予備校、進学指導に係る外部専門家等を招聘し、分析会や研修会に取り組んだ。結果を生徒に還元し、より効果的に成果へとつなげるためには、教科主任会議等の教科主体の組織を積極的に活用する具体的なプロセスが必要である。

- ③ 学校生活に対する意識の深化
 - ア 計画的・開発的な生活指導による自律的学習習慣の確立
 - イ 学校行事や部活動によるよき伝統の継承と新たな歴史の創造

コロナ禍で家庭学習と対面学習の連携が重視された。オンライン学習等も導入する中で、教師にとっても生徒にとっても試行錯誤の一年であった。できることに取り組むという発想の中で、これまでの学習機会を維持することを最優先とした。行事や部活動に関しては「引き継ぐ」ことを大きな目標をして取り組みを進めた。

- ④ 広報・募集活動の充実
 - ア 中学校、学習塾その他関係団体への効果的な広報・募集活動の企画・立案・実施
 - イ 魅力ある学校見学会や説明会の実施とホームページ等による組織的な情報の発信

感染症対策を徹底する中で、広報・募集活動は大きく制限された。工夫しながらの活動となったが、ホームページについては、更新回数が例年を大きく上回り、本校の姿を伝える重要な役割を果たした。

(2) 主な目標と方策

① 教育課程の管理と学校運営（教育課程の改善）

ア 習熟度別授業や少人数授業、選択科目等を点検・改善・精選し、国公立大学や難関私立大学への合格を目指して一層の充実を図る。

新教育課程実施の直前であり、制度的に大幅な見直しは行わず、授業の質を高めることで、コロナ禍においても学習の機会を確保し、進学に向けた意欲を継続させた結果、国公立大学の合格者数は前年を上回ることができた。

イ 生徒の体力向上に、授業及び特別活動等の教育活動全体で取り組んでいく。

感染症対策の下で、十分な取り組みには至らなかった。今後を引き継ぐ取組みの成果を次年度に活かしていきたい。

ウ オリピック・パラリンピック教育の理念を踏まえ、ボランティアマインドや豊かな国際感覚の涵養に取り組んでいく。

オリピック・パラリンピックが次年度に延期されたことを受け、レガシーとなるべくボランティアマインドの醸成や国際感覚の涵養に引き続き取り組んでいく。

エ 障害の有無に関わらず、特別な配慮や支援が必要な生徒に対して、「合理的配慮」のもと、学校として可能な支援をしていくとともに、特別支援委員会等、組織的効果的な指導や支援を行う。

例年より多くの特別支援委員会や拡大特別支援委員会を開催し、生徒の情報の共有に向け取り組んだ。引き続き、情報の共有だけでなく、外部専門家と連携した意図的で計画的な教育相談体制を構築し、支援を実践していく。

オ 外部評価や学校運営連絡協議会からの提言や意見を課題解決の方策として積極的に取り入れ、学校改革を推進する。

コロナ禍で学校運営連絡協議会の開催が年1回のみとなってしまう、外部評価の分析・検証が必ずしも十分とは言えなかった。数値結果については、ホームページ等で公開し、広く意見を求めるなど、今後の学校運営に役立てる。

カ 教職員全体の情報セキュリティに対する意識を向上させるとともに、出退勤や研修等、教育公務員としての服務に疑義がもたれないように努める。

服務事故は発生しなかったが、今後も継続して服務の厳正に努めていく。

キ ICTの活用や校務の効率化を図るとともに、「My 定時退勤日」や学校閉庁日を設けるなど、教職員のライフ・ワーク・バランスの実現に向けた取り組みを行う。

校務に支障の無い範囲で在宅ワークを取り入れ、時差勤務や年休取得促進を図った。しかし、時期的に勤務時間外の在庁時間が長くなる職員がいるなど、ライフ・ワーク・バランスの実現にはより一層の工夫や改善、積極的な取り組みが必要である。

ク 進学重視型単位制高校として積極的かつ効率的に予算を執行するとともに、効果的な予算

編成を行う。また、定期的な施設・設備の点検や修繕を実施し、学習環境の整備に努める。

限られた予算を効率的に執行するために、センター執行分の割合が多くなるよう努めた。施設・設備の改修や修繕も着実に進めてはいるが、いまだ不十分な点もあり、次年度も継続して取り組む。

② 学習指導（生徒一人一人の学力向上）

ア 授業を大切にしたい学びサイクル（予習→授業→復習→自発的学習〔発展・深化学習〕）の定着を図る。

コロナ禍という難しさがあつたが、3年次生は学びのサイクルが定着し、進学結果に結びついた事例が少なくない。次年度は、1・2年次生にも学びのサイクルを意識させ、主体的に学ぶ達成感と深く掘り下げて学ぶ充実感を認識させたい。

イ 学カスタンダードを活用し、教科指導における学習到達度を明確にするとともに、生徒の学力や進学希望先を見通した習熟度別授業で、生徒の長所を伸ばし短所を補い学力の向上を図る。

生徒の学力向上に向けては各教員が工夫・改善を凝らしているが、学カスタンダードを活用するなど組織的な取り組みには結びついていない。

ウ 年2回の大学入学共通テストレベルの実力テストや外部模試等の教科分析を通して、授業改善を図り、大学入学共通テストに対する生徒の学習意欲の向上や応用力を身に付けさせる。

東京都教育委員会、予備校、進学指導に係る外部専門家等を招聘し、模試分析会や研修会に取り組んだ。結果を生徒に還元し、より効果的に成果へとつなげるためには、教科主任会議等の教科主体の組織を積極的に活用し、生徒の実態に合わせた学校独自のプロセスを組織的に構築する必要がある。

エ 英語教育推進校として、生徒が「読む、書く、聞く、話す」の4技能をバランスよく高められるように指導する。

授業におけるJET・ALTによる実践的な指導や英語資格試験への取り組み、東京グローバルゲートウェイなどの施設利用等により、4技能の育成と定着に取り組んだ。今後の大学進学に向けた民間試験の活用なども考慮に入れながら、引き続き、4技能の育成を図るとともに、教職員の指導力向上も図っていく。

③ 進路指導（生徒一人一人の進学希望の実現）

ア 学級担任・教科担当者のみならず、5教科の教科主任・副主任との連携を更に強化し、進路指導部を中心とした進学指導方法・内容の統一性を高める。

イ 長期休業中の講習は、志望大学の受験に対応した内容であることを明確にするとともに、生徒が部活動との両立が図れるように工夫した提示を行い、大学受験に備える。

ウ 「3年間を通した進学指導計画」をいずれの年次（学年）も確実に実施していく。

エ 自主学习教材の活用を推進し、1年次生から家庭学習の充実を図る。手帳を用いたスケジュール管理により計画的な家庭学習が行えるように指導していく。

コロナ禍にありながら、組織的な進学指導に取り組み、長期休業中の講習でも、各教科の協力により生徒の学習機会を確保することができた。その成果は今年度の進学実績として現れている。1・2年次からの3年間を見据えた進路指導計画をより精査することにより、今後の生徒の進路意識を高め、実績につなげていきたい。

④生活指導（規範意識の確立）

- ア 都立学校生活指導指針を踏まえ、学校のルールを厳守した節度ある生活を指導するとともに、委員会や部活動等の指導においても挨拶や服装等の指導・徹底を図り、時間を大切にされた品位ある学校生活を確立していく。
- イ 安全・防災教育の推進を図る。
 - *セーフティ教室や避難訓練、宿泊防災体験活動等を通じた安全や災害に対する意識の醸成
 - *情報モラル推進校の経験を活かし、生徒に通信機器等を適切に使用することを指導するとともに、近隣の小学校等において啓発活動や普及を行う。
 - *警察等と連携して、地域における交通安全活動にも積極的に参加する。
- ウ 体罰禁止といじめの総合対策に基づいた対応が行えるように、アンケートの実施及び結果の適切な分析を行い、迅速・適切な対応を行う。
- エ 「総合的な学習の時間」やホームルーム、「命の講話」など様々な機会を通して、命の大切さを学ばせるとともに、スクールカウンセラーや外部機関とも連携し、いつでも悩みを相談できる環境を整える。また、「いじめ調査アンケート」は年間3回実施し、自殺の未然防止に資する。
- オ 食物アレルギーや食生活の自己管理を通じた健康の保持増進を図る。

コロナ禍にあり、宿泊防災訓練の中止やセーフティ教室等の外部機関との連携事業も制限された。そのような環境下で、避難訓練での避難経路の確認、ホームルームや総合的な探究の時間、各教科の授業における生命を大切にする教育やいじめ防止に取り組んだ。スクールカウンセラー等の専門家とも協働し、生命に関わる重大な事故の未然防止にも取り組んだ。

⑤ 特別活動（学校生活の満足度の向上）

- ア 生徒会や委員会活動について計画的な指導を行い、ホームルーム活動や学校行事を通して、学校生活の満足度を高めるとともに、生徒の社会的な自主性・自律性・規律性を高める。
- イ 部活動の指導方針に基づき、定期考査や学校行事等に配慮し、組織的な指導を通して、規律ある部活動へと発展させ、生徒の満足感や充実感を高める。

今年度は多くの学校行事が中止となり、生徒の満足度は向上したとは言えない状況である。引き継ぐことを最大の目標に、次年度に向けてすでに生徒の取り組みは始まっている。

⑥ 研究・研修

- ア 教科や分掌における四半期ごとのまとめを内部評価とし、次の四半期への改善計画を立案・実施する。
- イ 年間17回の計画的な教科会や科目担当者打合せの協議を通して、授業改善を図るとともに、授業力のみならず進学のための教科指導力を向上させる。
- ウ 長期休業日等における計画的な研修や学校外における進学指導方法・内容等の情報収集・活用を通して授業力と進学のための教科指導力、並びに生徒指導力を向上させる。

今年度の教科会は新型コロナウイルス感染症に伴う学校の対応による授業形態の変更や授業進捗の見直し、令和4年度から実施される新教育課程の編成に伴う内容に多くの時間

を費やし、授業力向上のための教科内研修や校内研修を開催することが十分ではなかった。引き続き学校として授業力向上に向けた取り組みを定着させていく。

⑦ 広報・募集活動

ア ホームページ等を積極的に更新し、本校の教育活動の周知を図る。

イ 学校説明会や学校見学会、自校作成問題対策会等を中学校の進路指導とリンクさせ、募集活動を充実させる。

限られた環境下で、できることは全て取り組んだ。また、感染対策を徹底しながら放課後の学校説明会を新たに計画し、少人数ながら定期的に開催し、中学生への情報提供の機会を確保した。小論文対策会の夏季休業中の実施や、学習塾への積極的な訪問による中学生への広報活動は充実することができた。ホームページのきめ細やかな更新回数は、都立高校でもトップクラスで、受験希望者へのアンケートでもホームページの広報効果の高さが立証された。

具体的な数値実績

1 学校運営

(1) 教育活動点検アンケート結果と分析

(生徒)

本校に入学してよかった	74.2% (H31 76.6% H30 77.3% H29 77.3%)
学校生活が充実し、自分の将来のためになる	73.1% (H31 77.7%)
学校行事が充実している	73.4% (H31 86.4%)
部活動が充実している	73.3% (H31 79.6%)
生活規律がしっかりしている	73.7% (H31 77.5%)

(保護者)

墨田川高校に入学してよかった	82.5% (H31 94.0% H30 95.2% H29 94.1%)
----------------	---------------------------------------

今年度は新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休業や学校行事の中止や延期が相次ぎ、生徒にとって充実感や満足感が得られなかった結果が数値となって表れている。特に学校行事や部活動の肯定的回答が大きく減っている点は見逃すことができない。学校生活へのモチベーションを高めるという視点から、この結果を含めて、次年度の教育活動の在り方を検討する。

保護者の方の回答で最も多いのが、「よくわからない・無回答」である。学校の教育活動に関する発信力の弱さを示している。コロナ禍で、授業参観や学校行事の見学機会が激減し、PTA活動も制限された影響も少なくない。次年度に向け、ホームページ等の更なる活用や情報発信について工夫と改善を重ねていく。

「施設・設備が充実している」という項目の肯定的回答が26.5%と他の項目に比べて大きく減少している。老朽化は否定できず、夏季期間における空調設備の効きの悪さもご指摘いただいています。修繕等については学校単独で対応できない側面もあり、引き続き東京都教育委員会と連携して快適な教育環境づくりを目指す。

(2) 自殺対策に資する教育の推進に向けた取り組み

自殺対策基本法（平成28年4月一部改正）及び自殺総合対策大綱（平成29年7月閣議決定）に基づき、以下の取り組みを行った。

- ① 1年次生の「人間と社会」の授業において、命の大切さを学習した。
- ② 2年次生の修学旅行事前学習において平和教育の一環として命の尊さを学習した。
- ③ 校内掲示により、悩みや不安相談の窓口を周知した。

④教育相談委員会、拡大生活指導部会等により、配慮の必要な生徒の情報共有を図った。

(3) ライフ・ワーク・バランス推進策について

「学校における働き方改革推進プラン」を踏まえ、業務の効率化と超過勤務の縮減を図った。在庁時間が著しく長い職員には注意喚起を促す、産業医との面談を進めるなどしたが、大きく改善するには至っていない。引き続き職員の心身の健康に配慮した業務の効率化を図っていく。

2 学習指導

(1) 数値目標と実績、分析及び課題

授業が大学進学を重視する高校として相応しい。【 R2 64.3%, H31 69.2% 】

新たな大学入学共通テストが始まり、新学習指導要領の実施も目前となった。新しいカリキュラムの決定とともに、授業における新しい学びについても教科会等で検討を重ねてきた。今年度はコロナ禍に伴う臨時休業や分散登校もあり、学びの機会の保障が最優先となり、学びの質を高める取り組みが不十分であったことが数値に反映されている。

今後の新型コロナウイルス感染症の影響が見通せない状況下で、学校での対面授業と家庭での学習を結び付けた学習が求められている。次年度は、この視点を優先事項とし、3年間を見据えた進学指導に取り組んでいく。

3 進路指導

(1) 数値目標と実績

①3年次生の第一志望大学（短期大学を含む）への合格率

【 R2 18.3% H31 28.5% H30 26.7% H29 27.7% 】

②大学入学共通テスト（大学入試センター試験）

・出願者数

【 R2 300名 H31 305名 H30 287名 H29 307名 】

・得点率70%以上の生徒の割合

【 R2 22.8% H31 37.6% H30 43.9% H29 29.5% 】

・全国平均点を上回る科目数

【 R2 17科目中10科目 H31 15科目 H30 14科目 H29 14科目 】

③大学合格者数

・国公立大学合格者 【 R2 35名 H31 25名 H30 30名 H29 18名】

・難関私大合格者 【 R2 97名 H31 128名 H30 85名 H29 117名】 早慶上理 GMARCH

合格内訳：早稲田 【 R2 2名 H31 8名 H30 2名 H29 9名 】

慶應義塾 【 R2 2名 H31 1名 H30 1名 H29 2名 】

上智 【 R2 1名 H31 4名 H30 1名 H29 5名 】

東京理科 【 R2 17名 H31 16名 H30 10名 H29 8名 】

(2) 分析と成果

3年次はコロナ禍による臨時休業により、「第一志望宣言」が6月以降に大きくずれ込んでしまった。意欲的に受験に取り組むためにはできるだけ早い「第一志望宣言」が必要であるが、短縮された夏季休業中の講習などに精力的に取り組むことで、遅れを取り戻そうと努力した。1年次からの計画的な国公立受験指導によって、国公立大学の挑戦者が増加し、合格者数はここ10年で最も多い数値となった。国公立大学の後期募集まであきらめずに挑戦するという戦略が結果を導き出した。

私立大学においては、国公立大学が増加した分、早慶上理GMARCHの合格者は減少していった。ここが本校の課題である。両者を合計した数値が伸びるようにするための、戦略的な指導が必要である。

大学入学共通テストには、300名の生徒が受験している。国公立大学への進学を実現する

ために受験者数を増やすことは必要であるが、少ない教科科目で受験ができる私立難関大学への進学指導へも工夫が必要である。新たな教育課程において、2年次からの緩やかな文理選択等、戦略的な学習も必要となる。生徒の特性と進路希望を見極め、早い段階で志望校を意識させることが重要である。

4 生活指導・特別活動

(1) 数値目標と実績

① 学校生活の満足度

【 R2 73.1% H31 77.3% H30 77.3% H29 78.9% 】

② 皆勤者数

1年次 【 R2 127名 H31 115名 H30 123名 H29 116名 】

2年次 【 R2 83名 H31 87名 H30 103名 H29 75名 】

3年次 【 R2 36名 H31 52名 H30 33名 H29 33名 】 ※3年間皆勤

(2) 分析及び課題

学校生活への満足度では、肯定的評価の割合がやや下がった。コロナ禍による部活動の制約や学校行事の中止が影響している。例年のことであるが、施設・設備の改修・修繕が喫緊の課題である。

生活指導では、「生活規律がしっかりしている」に肯定的な回答をしている生徒が73.7%となっている。生徒の意識は高く、ルールやマナーを正しく認識している生徒が多いことが分かる。引き続き、高校生として望ましい生活とは何かを生徒自身に考えさせる指導に取り組んでいく。

部活動や学校行事については、コロナ禍の影響で実施は大きく制限された。生徒自身も来年度に向けた継承を中心に活動の在り方を検討してきた。生徒の新しい発想や新しい取り組みを活かせるよう次年度の計画に反映させたい。

5 広報・募集活動

(1) 数値目標と実績

① 入学者選抜における倍率

推薦入試 【 R2 2.52倍 H31 2.58倍 H30 3.25倍 H29 3.48倍 】

一般入試 【 R2 1.01倍 H31 0.99倍 H30 1.42倍 H29 1.30倍 】

② 学校説明会等への参加者数

【 R2 1,849名 H31 4,150名 H30 5,511名 H29 5,912名 】

(2) 分析及び課題

① コロナ禍により、夏休みに入る頃まで見学会の開催や外部説明会等に参加することが出来なかったことが参加人数の減少に大きく影響した。今年度から実施した毎週2回の放課後説明会は少人数ながら本校受験希望者の確保に大いに寄与した。

② 塾・予備校訪問を積極的に取り組み、200か所以上の関係施設を訪問し、そこでいただいた意見や情報を募集対策に活用した。また、ホームページの更新回数は都立高校の中でもトップクラスで、募集対策に大きく貢献した。

③ 一般入試における受験者数の減少は複合的な要因が考えられる。近隣に同水準の都立高校全日制普通科が多く存在する中で、「進学型単位制」そのものの存在意義が薄れてきている。本校は「自校作成問題」による入学者選抜を実施しているが、受検者が志望校変更の際して影響の少ない「都立共通問題」を選択する傾向にある。本校の施設・設備の老朽化が著しく、他校と比較して快適な教育環境と言い難い部分がある等が重なり、入学を希望する3校の中には選ばれるが、最後の志望校へと結びつかない実態がある。本校の授業や特別活動への取り組みをより一層強くPRするとともに、学校単独では改善できない要因については、東京都教育委員会と連携し対応していく。